



埼玉の特別天然記念物

かわはく No.80

CONTENTS

開催案内：令和6年度特別展

「自然の“国宝”展～天然記念物からみた埼玉の自然～」…………… 2

開催案内：スロープ展・蔵出しコーナー「今も残る養蚕習俗」…………… 4

開催予告：秋期企画展「荒川放水路と自然の姿(仮)」…………… 5

開催報告：大人のための講座「地形と水とお酒I」…………… 5

学芸員コラム：「環境フェスタ2024」へ出展しました…………… 6

学芸員コラム：荒川流域に新たな「陸閘」が完成…………… 6

学芸員コラム：「国際学会での発表と巡検参加」…………… 7

イベント情報コーナー 8・9・10・11月…………… 8



開催案内

令和6年度特別展

「自然の“国宝”展～天然記念物からみた埼玉の自然～」

開催期間：2024年7月6日（土）～9月1日（日）

県内には、特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地（さいたま市）」「牛島のフジ（春日部市）」「御嶽の鏡岩（神川町）」が所在します。また、埼玉県は、所在地の地域を定めない「カモシカ」の主な生息地にも含まれています。いずれも歴史・学術的価値の高い、世界に誇る日本の宝、すなわち自然の“国宝”です。そのほかにも、県民の鳥「シラコバト」をはじめとする国や県指定の天然記念物が多数所在します。これらの天然記念物を紐解いていくと、埼玉県の特徴や人との関わりの歴史が見えてきます。この特別展では、文化財保護制度の仕組みや、県内の天然記念物を解説するとともに、それらを守ろうとする人々の活動を紹介します。

■ようこそ！めくるめく自然の“国宝”の世界へ

特別天然記念物には、動物、植物、地質鉱物のほかに、天然保護区域（保護すべき天然記念物に富んだ代表的な一定の区域）の指定があります。全国で75件指定されている自然の“国宝”こと特別天然記念物を紹介します。

■守れ！天然記念物

県内に所在する天然記念物を荒川の各流域と地質分野に分けて紹介します。特に地質分野では、所蔵されている県立自然の博物館以外では初公開となる「チチブサワラ骨格化石」などの化石を展示します。



県指定天然記念物 チチブサワラ骨格化石

天然記念物に指定されている動植物の中には、人の手が加わることで減少の危機に瀕するものや、守られているものがあります。そうした天然記念物を守り、次世代に遺そうとするバラエティー豊かな活動を、歴史資料や写真を通じて紹介します。

また、リバーホールに自生地がそれぞれ国あるいは県の天然記念物に指定されている「ムジナモ（羽生市）」と「ムサシトミヨ（熊谷市）」、種そのものが、国の天然記念物に指定されている「ミヤコタナゴ（滑川町）」を生体展示し、その生態や保護活動を紹介します。



国指定天然記念物 ミヤコタナゴ

■「ニク」とよばれた自然の“国宝”、カモシカ

特別天然記念物のみならず天然記念物の象徴的な存在であるカモシカは、狩猟によって数を減らし、昭和30年に特別天然記念物に指定されました。カモシカをどのように利用してきたかを現在



県指定有形民俗文化財 合角ダム水没地域の民俗資料のうち「火薬入れと玉入れ」（小鹿野町教育委員会所蔵）

に伝える県指定有形民俗文化財や歴史資料とともに、カモシカと私たちとの関わりの歴史を解説します。あわせて、現在カモシカを取り巻く問題を、県が行っている生息調査の結果とともに紹介します。



定点カメラにとらえられたカモシカ（飯能市）



■シラコバトから埼玉の歴史がみえる

「越ヶ谷のシラコバト」として国の天然記念物に指定されているシラコバト。実は、江戸時代に「斑鳩（いかるが）」と呼ばれ、海外から持ち込まれたものが関東近辺に定着した外来種です。なぜ外来種のシラコバトが天然記念物に指定され、県のシンボルにもなっているのか？シラコバトの保護に深く関係していた江戸時代の鷹狩の歴史とともに、シラコバトの他に、かつて「斑鳩」と呼ばれた鳥なども紹介します。



大名鷹狩絵巻

■文化財でなくとも遺したいもの

私たちの身の回りには文化財に指定されていないもの、後世につないでいきたいものがたくさんあります。秩父市の合角ダムの建設によって水没した地域の調査資料を中心に紹介します。

■関連イベント（予約の有無は裏表紙をご覧ください）

○展示解説

本展示を企画・監修した学芸員が展示の見どころ、ポイントを解説します。

日時：7月7日（日）・8月17日（土）

11:00～11:30、14:30～15:00

講師：県立自然の博物館 北川博道氏

場所：第二展示室

○さいたま水族館と宝蔵寺沼ムジナモ自生地見学会（共催：羽生市教育委員会）

ムジナモについて学び、さいたま水族館での域外保全の様子や宝蔵寺沼を見学します。

日時：7月21日（日）10:00～12:00

講師：さいたま水族館 飼育員

羽生市ムジナモ保存会 尾花幸男氏

羽生市郷土資料館 山崎吉弘氏

場所：さいたま水族館 定員：25名

費用：500円（予定）

○講演会「天然記念物の化石たち」

埼玉県産の化石を紹介し、埼玉の大地の成り立ちを解説します。

日時：7月28日（日）10:00～11:00

講師：県立自然の博物館 北川博道氏

場所：ふれあいホール 定員：50名

○ムジナモストラップづくり

ムジナモの輪葉をレジンで包埋した標本としても美しいストラップを作ります。

日時：8月6日（火）

①10:30～ ②11:30～

③13:30～ ④14:30～

講師：羽生市ムジナモ保存会 福地秀夫氏

場所：ふれあいホール 定員：各回30名

費用：1つ300円

○講演会「巨樹を楽しむ」

県内には石戸蒲ザクラ（北本市）など多くの巨樹・古木が天然記念物に指定されています。3名の講演者が植物学や民俗学などの多角的な視点からその魅力を語ります。

日時：8月24日（土）10:00～12:00

講師：全国巨樹・巨木林の会 大久根茂氏

北本市教育委員会 坂田敏行氏

埼玉県教育委員会 須田大樹氏

場所：ふれあいホール 定員：50名

■特別展限定グッズ販売

○オリジナル手ぬぐい【限定300枚】

埼玉の天然記念物がモチーフの、寄居町の染物屋さん「きぬのいえ」による手染めの手ぬぐい。



販売価格：1枚1,500円

手ぬぐいのデザイン（イメージ）

○ガチャ缶バッジ

天然記念物のイラストがかわいい缶バッジのデザインは8種。何が出るかは楽しみです。

価格：1回300円



缶バッジのデザイン（イメージ）

○記念絵葉書

特別天然記念物「カモシカ」の絵葉書。

販売価格：1枚100円

○図録

家でも特別展を楽しむことができる図録も販売。

販売価格：1冊1,100円

（学芸グループ 板垣ひより・三瓶ゆりか）



開催案内

スロープ展・蔵出しコーナー『今も残る養蚕習俗』

開催期間：2024年6月21日（金）～9月29日（日）

日本の美称の一つに「扶桑（ふそう）」があります。古代中国の伝説では、東海の果てには扶桑というクワの巨木が生えているとされ、扶桑国が日本の異称になっていました。

ペリー来航をきっかけにして海外との貿易が始まると、生糸は主力輸出品となり、輸出総額の70%を占めました。明治以降も生糸の重要輸出品としての地位は変わらず、明治42年（1909）には世界一の生糸輸出国となり、それは昭和16年（1941）にアメリカへの輸出が途絶するまで続きました。近代日本は、いたるところに桑園が広がる文字通りの“扶桑国”だったのです。

我が埼玉県も、群馬県・福島県に続く全国第3位の養蚕王国だった歴史があります。昭和初年の最盛期には桑園面積は1万haに達し、養蚕農家も10万戸を超えました。しかし、昭和末期から養蚕業は急速に衰退していき、令和4年度で養蚕農家は11戸にまで減少しています。県内の原風景ともなっていた延々と広がる桑畑も、今は果樹や野菜といった他作物を植えた畑や住宅地に置き換わり、見る影もなくなってしまいました。

産業としての養蚕は、残念ながら衰退してしまいましたが、養蚕を背景にして成立・成熟した文化・習俗は、今もおこなわれています。

本展示では、そうした今も埼玉県内に残る養蚕習俗を取り上げます。ここでは、内容の一部を紹介しましょう。

■ 県内最古の蚕神

養蚕が盛んだった地域では、養蚕成功を守護する神仏が祀られました。日高市高萩にある蚕影山石塔は、勢至菩薩を上部に、金色姫と父大王を脇侍として下部に配置したもので、江戸時代に養蚕信仰の中心地だった蚕影山が発行していた図柄を模したものです。



日高市高萩の蚕影山石塔（文化5年（1808） 建立）

養蚕の発祥を語るものとして、金色姫の物語があります。継母にいじめられ、苦難の末に日本にたどり着いた天竺の金色姫が、常陸国でカイコに転生したというものです。茨城県、筑波山麓にある蚕影山神社は、金色姫ゆかりの神社として、埼玉県内からも多くの信者が訪れました。

県内各地には、こうした蚕神を祭った場所が140ヵ所近くあり、今も祭祀が続けられているところもあります。

■小正月と養蚕

県内各地の家庭では、1月1日からの大正月の後、15日にも小正月という行事がおこなわれてきました。小正月では、クワの枝などに餅をつける繭玉飾りを床の間などに飾り、養蚕成功を祈願しました。また、ツクリモノとしてハナやカタナを作って、正月様に供えます。



寄居町末野の正月様（2024年撮影）

■養蚕護符と版木

養蚕農家にとって天敵である、カイコや繭を食い荒らすネズミ退散を願う護符も多く出されていました。今ではめったに刷られることはありませんが、かつて護符を刷った版木が社寺の蔵に眠っています。

（学芸グループ
矢嶋正幸）



ネズミ除け護符と版木（里見守重氏提供）



開催予告

秋期企画展「荒川放水路と自然の姿（仮）」

1910年、一級河川の荒川は、のちに「明治43年の大洪水」と呼ばれる大洪水に見舞われ、東京の下町一帯が浸水しました。洪水を防ぐため、それまで現在の隅田川を流路としていた荒川は「荒川放水路」として新たな河道に造り替えられました。以来、荒川放水路は最下流部を洪水から守っています。

今年10月12日に、荒川放水路は通水100年の節目を迎えます。また、今年5月には、荒川放水路とともに整備された旧岩淵水門（通称赤門）が新たに重要文化財に指定が答申されています。現在の岩淵水門（通称青門）は、荒川の増水時に隅田川の洪水を防ぐ役割を担っています。

放水路通水100年を記念して、放水路建設の経緯と役割、また汽水域に生息する魚類のボラやスズキをはじめとする、放水路とその周辺自然環境を利用する生きものたちを紹介します。

（学芸グループ 藤田宏之・羽田武朗）



上空から臨む新・旧岩淵水門
（写真提供：国土交通省 荒川下流河川事務所）



荒川河口付近のコアジサシ

開催報告

大人のための講座「地形と水とお酒Ⅰ」

中山道の宿場町として栄えた深谷宿。この町のシンボルとして3本の煉瓦造りの酒蔵煙突がそびえています。5月19日に、深谷宿の地形と水と酒蔵を巡るイベントを開催しました。

深谷という地名は、深谷駅の南側に位置する崖に由来します。崖を形成する深谷断層帯は、群馬県安中から埼玉県鴻巣市に至る全長69kmと推定されるもので、深谷駅周辺では8～14mの標高差があります。この崖が、本イベントのテーマになっている湧水を作り出しています。崖下には、滝ノ宮神社という湧水を祀った神社があり、今も明神池があります。市街地の北には深谷城址がありますが、唐沢川を引き込んだ堀や湿地を防御に利用した城でした。

この湧水を使った深谷の名産品が日本酒です。今回は、滝澤酒造さんの蔵にも入れていただき、蔵人自ら解説をしていただきました。仕込み水として使っている井戸は深さ数mですが、これまで

枯れたことがないそうです。参加者の中にはお酒をお土産にして、自宅で官能検査を試みる人もいたようです。

地元から参加された方からは「普段見られない所や、車で過ぎ去ってしまうところを歩いてまわられて勉強になった」と、好評をいただいたイベントとなりました。

（学芸グループ 板垣ひより・矢嶋正幸）



酒蔵を案内する滝澤酒造の中座大輔さん



学芸員コラム

「環境フェスタ2024」へ出展しました

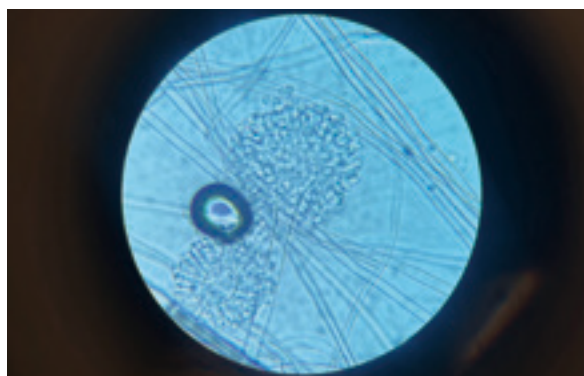
6月8日（土）、飯能市市民活動センターを会場に開催された「環境フェスタ2024」（共催：はんのう市民環境会議・飯能市）に出展しました。当イベントは、環境月間事業の一環として、各出展団体が環境に関する展示や体験型教室等を通して、広く環境について気づき・理解を深めてもらうことを目的としています。

当館は、「顕微鏡をのぞいてみよう（藻類と菌類）」を実施し、珪藻・コウジカビ・変形菌を顕微鏡で観察してもらい、その生態や種類などを解説しました。珪藻のガラスの被殻のみを並べたアートスライドを見て、驚きの声を上げる方が多くいらっしゃいました。子どもたちには変形菌が人気で、複数ある標本からお気に入りを見つけ、何度も顕微鏡をのぞきに立ち寄ってくれる子もいました。顕微鏡でのぞく小さな生き物の世界にも興味を持ってもらい、広い視野で環境を捉えていただけたらと思います。

（学芸グループ 三瓶ゆりか）



ブースのようす



コウジカビ

学芸員コラム

荒川流域に新たな「陸閘」が完成

「陸閘（りっこう）」とは、堤防を切って設けられた河川への出入口を閉鎖する門のことです。洪水時には陸閘が閉められ、一続きの堤防としての役割を果たします。

荒川流域には、かつて川砂利採取が盛んに行われていた熊谷市の大麻生に1カ所のみ、陸閘が現存していましたが（大麻生陸閘）、新たにもう1カ所陸閘が整備されました。場所は、荒川左岸側、さいたま市西区二ツ宮、治水橋（横堤・間宮1）へとつづく県道56号線沿いです。

この陸閘は、前述のような「河川への出入口」を用意するために整備されたわけではなく、堤防の嵩上げ工事に伴い整備されました。荒川左岸と右岸を結ぶ治水橋ならびに県道56号線は、交通量の多い道路のため、堤防の嵩上げ工事により通行止めにするのは現実的ではありませんでした。そのため、新たに陸閘を整備することで、洪水時の堤防の必要高の確保、そして交通問題も併せて

解決する方法がとられたわけです。

11月には、坂戸市内の陸閘と台地の上に整備された堤防を見学するイベントを企画しています。「台地の上に堤防がある？」このイベントは私が話を聞いて不思議に思い、現地を見学して驚いたことをそのままイベントにしてみました。ご興味のある方は、ぜひご参加ください。

（学芸グループ 羽田武朗）



整備途中の陸閘



国際学会での発表と巡検参加

5月19日から21日まで、IUSS（国際土壌科学連合）の100周年記念会議が開催されました。IUSSは1924年5月19日に、ローマにおいて土壌学の研究者により発足した国際学会です。今年は発足の地イタリアで開催されました。世界中からフィレンツェに土壌学の研究者が集まり、私もその会議に出席してきました。

この大会には7つのテーマがあり、最初に「SDGsを達成するための土壌の健康 (soil health)」が挙げられていました。例えば持続可能な開発目標の2番目の「飢餓をゼロに」、13番目の「気候変動に具体的な対策を」、15番目の「陸の豊かさを守ろう」の達成には土壌学の力が不可欠です。地球の表面にある土壌は、森を支え、農業を支え、私たちを含む生命にとって不可欠です。土の大切さを社会に明示するのは土壌学者の責務であることが、学会のテーマのひとつ「土と人類」において謳われていました。

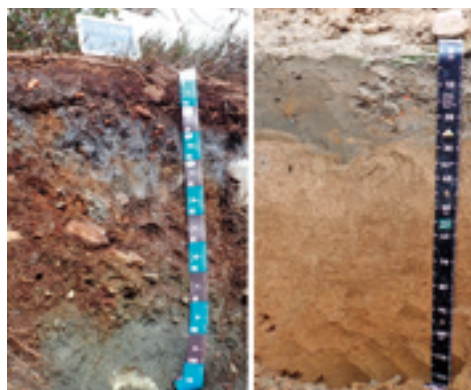
私は、土壌教育や社会との関わりについてのサブテーマの中で、土壌教育制度について議論する部会の副座長を務め、また、日本の土壌教育の現状についてのポスター発表を行いました*。土壌教育や社会との関わりについて、初等教育から大学における土壌教育の取り組みや課題、また社会への積極的な働きかけに関する発表など、多くの演題があり、日本でも積極的に推進していきたいと気持ちを新たにしました。



土壌教育の講演会場にて

大会の後には、いくつかの巡検ツアーが用意され、私は北西部コースに参加しました。トリノを中心にアルプスの寒冷地に特徴的にみられる土、低標高産地（草原）の土、扇状地の森の土、低地で水田や畑に利用される土の断面を見てまわりま

した。今年は4・5月に例年にない大雪があったそうで、氷河湖へ向かう途中はかなりの雪がある中をポドゾルの断面に向かいました。ヨーロッパの地形は氷河の影響が色濃く、断面の下の方は、氷河の後退の際に堆積した土砂ではないか、緩やかな斜面の浸食と堆積があるのでは、など断面の前で賑やかな議論が交わされました。



左：アルプスの土、右：水田の土

次は水田へ。トリノより東にはロンバルディア平原とよばれる低地が広がっています。ポー川が流れる低地ですが日本のように川の氾濫による堆積物ではなく、氷河が後退した時の堆積物をもとにした土壌です。山に囲まれたこの土地は湿地になっていて、昔は作物を育てるのが難しい土地でした。しかし、マルコポーロの遠征以来アジアの作物が手に入るようになり、また近代技術により大規模な灌漑施設をつくることが可能になって、湿地は一大水田地帯に生まれ変わったそうです。このあたりの水田は今やヨーロッパの米生産の6割を担っているとのこと。食文化にも影響し、イタリア北部では南部よりも食卓に米が上がる頻度が高いようです。美味しいリゾットはロンバルディア平原で生まれたのかもしれませんが。

今回の巡検で、ヨーロッパは氷河地形が土を見る上のひとつのキーワードだと実感しました。日本の急峻な地形と火山灰、とはずいぶん異なる環境です。グローバル化が進み、私たちの生活も世界の土や農業と無関係ではありません。折々に、世界の土事情についてお話できればと思います。

(学芸グループ 森圭子)

* 科学研究費基盤研究 (B) 『SDGs 達成に向けた課題解決型学習パッケージを用いた包括的土壌教育手法の開発 (23K26806・代表 愛知大学 小崎隆)』に研究協力者として参画し、本研究発表について支援を受けた。

8月

7/6/土～9/1/日

特別展「自然の“国宝”展～天然記念物からみた埼玉の自然～」

1/木

かわはくであそぼう・まなぼう「かわはく開館・水の日記念イベント」

時間：①10:00～12:00 ②13:00～15:00

内容：水について学びます。

6/火

特別展開連イベント ワークショップ「ムジナモストラップづくり」

時間：①10:30～ ②11:30～ ③13:30～ ④14:30～

費用：300円

定員：各回30名 ☎

内容：ムジナモの葉をレジンで固めたストラップを作ります。

10/土

かわはく体験教室「竹のおもちゃ作り」

時間：13:30～15:30

費用：300円

定員：15名 ☎

内容：竹のケンダマなど昔ながらのおもちゃを作ります。

17/土

特別展開連イベント「展示解説」

時間：①11:00～ ②14:30～

内容：展示を企画・監修した学芸員が解説します。

18/日

かわはく研究室「ケイソウって何？」

時間：13:30～15:30

内容：水の中のケイソウを顕微鏡で観察します。

24/土

特別展開連イベント 講演会「巨樹を楽しむ」

時間：10:00～12:00

定員：50名 ☎

内容：県内に所在する国・県指定天然記念物の巨樹・古木の魅力について、3人の講演者が語ります。

9月

9/21/土～12/1/日

企画展「荒川放水路通水100年記念 荒川放水路と自然の姿(仮)」

8/日

かがくかい～かがく!?いくがが?～

時間：①10:30～12:00 ②13:30～15:00

費用：500円

定員：各回8組 ☎

内容：水の性質を科学インストラクターの先生と一緒に実験して学びます。

15/日

かわはく研究室「食卓に上がるキノコを観察しよう」

時間：13:30～15:30

内容：栽培されている食用キノコを顕微鏡で観察します。

21/土

かわはく体験教室「ジュズダマで遊ぼう」

時間：13:30～15:30

費用：200円

定員：15名 ☎

内容：水辺に生えるジュズダマを使ってプレスレットを作ります。

22/日・祝

かわはくであそぼう・まなぼう「お月見クイズラリー」

時間：13:30～15:30

内容：お月見にまつわるクイズラリーをします。

10月

5/土

かわはく体験教室「伝統漁法体験」

時間：①10:00～12:00 ②13:30～15:30 (予定)

費用：500円 (予定・保険料)

定員：15名 ☎

内容：立ちこみ釣りや投網などの伝統的な漁法を体験します。

6/日

かわはく寄席

時間：①11:00～ ②13:30～

費用：500円

定員：各回40名 ☎

内容：午前は子供向き、午後は大人向けの落語が楽しめます。

12/土

企画展開連イベント「高麗川河川敷グリーン作戦」

時間：10:00～11:30

費用：100円 (予定・保険料)

定員：20名 ☎

内容：荒川水系の高麗川で、河川敷のごみ拾いや外来植物の除去を行います。

19・20・26・27/土日

かわはくであそぼう・まなぼう「かわはくでハロウィン」

時間：10:00～16:00

内容：ハロウィンを楽しむイベントを館内各所で行います。

仮装をして来館された方にはプレゼントがあります。

20/日

かわはく研究室「ミニきのこ展」

時間：①10:00～12:00 ②13:00～15:00

内容：野生のきのこを展示解説します。

11月

3/日・祝

荒川ゼミナールI「台地の上の堤防を見に行こう」

時間：09:30～16:00 (予定)

費用：300円 (保険料)

定員：20名 ☎

内容：カスリーン台風の被害を受け、台地上に整備された堤防と大川平三郎ゆかりの地を歩きます。

10/日

大人のための講座「地形と水とお酒Ⅱ」

時間：10:30～15:30 (予定)

費用：300円 (保険料)

定員：20名 ☎

内容：小川町駅周辺の地形や歴史、文化を学びながら酒蔵を見学します。

14/木

かわはく秋まつり

内容：県民の日を記念して、秋まつりを開催します。年に一度の無料開放日です。

16/土

かわはく体験教室「河原で植物ウォッチング」

時間：①10:00～11:00 ②13:30～14:30 (予定)

費用：100円 (保険料)

定員：各回10名 ☎

内容：かわせみ河原で見られる植物を観察・解説します。

17/日

かわはく研究室「流れる水のはたらきの実験をしながら水害について考える」

時間：13:30～15:30

内容：小学5年生の理科の単元「流れる水のはたらき」について実験をし、近年の水害について考えます。

23/土・祝

“かっぱクエスト”ルールを知ってもっと川を楽しもう

時間：11:00～12:30

費用：500円 (保険料)

定員：親子6組 ☎

内容：閉園中の荒川わくわくランドで水難について学びます。

30/土

かわはくで季節を楽しむ「切り紙で水車のある風景をつくら!」

時間：①10:30～12:00 ②13:00～14:30

費用：1,500円

定員：各回12名 ☎

内容：寄居町在住の切り紙作家さんに教わりながら水車の切り紙を作ります。

24/日

かわはくこども交流員

時間：13:00～14:30

費用：500円

定員：5名 ☎

内容：イベントのアナウンスなどの交流員のお仕事を体験します。

ホームページでも紹介しています!

<https://www.river-museum.jp>

【お願い】①イベントは諸事情により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申し込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベント開催日の2日前までです。③定員になり次第締め切ります。

編集・発行

埼玉県立川の博物館



〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739 (学芸グループ) FAX/048-581-7332
ホームページのフォームからお問い合わせいただけます。
<https://www.river-museum.jp>または「かわはく」で検索
X (旧Twitter) でもイベントの配信を行っています。
かわはく HP トップページQRコードはこちら →



2024年7月22日発行